

住民が消火活動できる機材 スタンドパイプ



消火器では届かない火元に毎分 100 リットル以上を放水



消防署員の説明による操作訓練

火災が発生した時に、まず思い浮かぶのが消火器です。しかし消火器は発生して間もない初期の消化に対しては非常に有効な器材ですが、消火剤に限りがあるため、拡大してしまった火災に対応することは困難です。

◆スタンドパイプ操作訓練を体験

そこで、スタンドパイプが有効だと聞いていました。11月に上池袋三丁目町会が堀之内公園で行った「スタンドパイプ・消火栓の操作訓練」に参加しました。多くの住民が参加し、消防署員の説明で訓練が実施されました。

スタンドパイプは、道路に埋設された消火栓に直接差し込み、ホース・筒先を結合することで、毎分100リットル以上を放水することができる機材です。スタンドパイプ本体のほか、消火栓鍵、スピンドルドライバー、媒介金具、ホース、筒先等で構成されています。

20メートルのホースを3本接続すれば、60メートル先まで放水することができます。



道路の消火栓の位置は東京消防庁ホームページの「東京消防庁マップ」で確認することができます

軽量で持ち運びしやすく移動はとても楽です。取扱いは簡単ですが、消火活動は危険を伴いますので、安全に有効な使用ができるようにするために、定期的な訓練を行い、知識と技術の修練が必要です。

◆配備拡大の重要性について

首都直下地震など大規模な災害が発生した際に、消防隊の到着が遅れたり、出動できない場合に、スタンドパイプがあれば住民が協力して消火活動にあたるすることができます。

今後はスタンドパイプを防災倉庫や学校、各町会、民間施設に配備していくことと合わせて、消火栓の増加が求められます。